

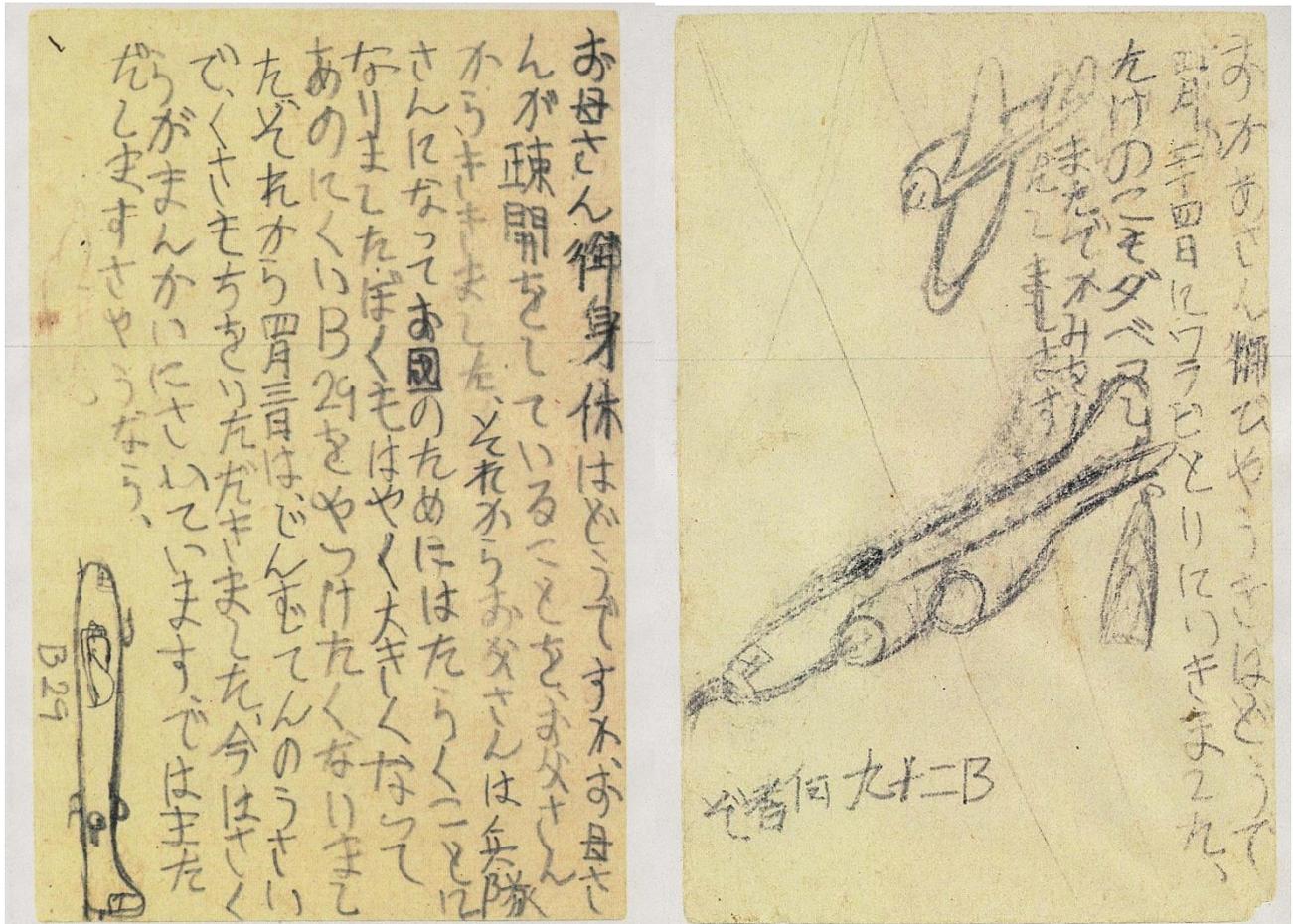


つどいの樹

第9号

～ 学ぶ会だより～

2022年9月1日発行



戦時下の子どもの心は？

疎開先の4年生男子から母親へのハガキ。戦時下の子どもの心は？ 前年1944年8月、静岡県の寺に集団疎開。1945年3月半ば、B29の大編隊が頭上を飛び艦砲射撃の音が聞こえてくる。4月、父(45歳)が面会に来て、自身の入隊と結核の母親の療養と疎開を兼ね、女家族5人が祖母の実家、埼玉県のある寺へ越したことを告げる。家族はバラバラ、原宿の家は空。4月のハガキ(左)はそれでも文も文字もしっかり。5月末、同級生の父親が娘を迎えに来て、5月25日の山の手大空襲でその娘の兄が焼き殺され、学校も自宅も……多くの家が焼かれたことを知る。31日、先生が青森県弘前への再疎開を告げ、それは秘密に家族にハガキを書けと指示。書いたのは3行だけ(右)。6月30日、弘前へ出発。夜8時、暗い品川駅頭での列車の窓越しの面会も、彼と彼の従妹には誰も来ない……。

(文:志太 誠治 はがき:個人蔵 コピー提供:大田平和のための戦争資料展実行委員会)



大国の侵攻と非暴力論のゆくえ

安井 俊夫（「学ぶ会」代表）

1931年、日本軍による侵攻＝満洲事変に際して、中国側は軍事力による抵抗を避け、「連盟への提訴」で対抗した。だが日本軍の侵攻は止まず、1937年国民政府は「最後の瀬戸際」との認識から、「応戦・抗戦」に踏み切った（教科書224ページ）。この時点で国共合作も成立し、中国の抗日戦争が展開される。

だがこれに対して、「非暴力」のインド独立運動を担うマハトマ・ガンディーは「中国が守勢に立っているからと言って、非暴力的であるということにはなりません。それゆえに、中国が積極的に非暴力であるかどうかを試す秋がきたときに、中国はテストに失敗しました」と論じた（『わたしの非暴力1』みすず書房）。

だが蒋介石は1942年2月、インドに飛び、「侵略に対する抵抗勢力を連合させ、中印両民族が求めている自由の基礎を固める」ことをガンディーに提起したが、ガンディーはこれには応じなかった（『蒋介石秘録14』サンケイ新聞社）。

だが日本軍は既にビルマを席卷し、インド国境に侵攻してきた（インパール作戦）。これに対してガンディーは、「独立インドとして日本との講和を構想」していたとされる（長崎暢子『ガンディー・反近代の実験』岩波書店）。

のちに中印両国の主役は周恩来とネルーに入れ替わったが、非暴力の思想は継承され、それを基に「平和五原則」が世界に向けて宣言されたのは、1954年であった。

風のいろ 大国の侵攻と非暴力論のゆくえ	安井 俊夫・・・2
今・学校で・教室で 教材研究は教師の生命線	加藤 飛翔・・・3
交流の広場 楽しく語り合って、今につなげる	黒澤 裕子・・・4
大学のキャンパスから	
学生模擬授業 世界中が不景気だー世界恐慌と経済政策ー	山本 政俊・・・5
歴史の窓 夏のお薦め映画：加藤泰監督『骨までしゃぶる』	横山 百合子・・・6
授業づくりの土おこし モノから学ぶ歴史	
⑦ カレーライスはインド料理ではない！？	瀬戸口 信一・・・7
ようこそ教科書の舞台裏へ アジア太平洋戦争への思い	
その6 日本軍が奪った中学校教師と生徒の命	高嶋 道・・・8
学びを深める バトンをつなぐ中学生	
第1回 「歴史に学べ」という子どもたち	平井 敦子・・・9
随想 連載⑨ 合唱コンクールの力	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12

教材研究は教師の生命線

加藤 飛翔 (東京都公立中学校)

はじめての学級担任

臨時的任用を経て、正規教員として採用されてから2年、中学1年生の担任となった。生徒たちの間近にいて、ふれあいを深められることをとてもうれしく思う反面、学年や校務分掌の仕事(教務部の時間割担当)、生徒会活動、専門ではない部活動顧問など、これまでに増して激務となった。教材研究にかけられる時間が限られていることに一抹の不安を感じていた。「教科の専門性を追究したい」「社会科の力で生徒を変えたい」そんな私の目標は不可能なのではないかと思う日もあった。

限られた時間の中で…

私たちは、教師である以前に一人の労働者であり、一人の人間である。「ワーク・ライフ・バランス」の概念が実現できなければ、この職業の魅力が著しく失われてしまうのではないかと危惧している。

そこで私は、限られた時間の中でも「教材研究は教師の生命線」という意識をもち、教師にとっても生徒にとっても納得のいく授業実践を追究している。その中でも有効なツールとして、例えば千葉県歴史教育者協議会の東葛支部では、ベテランの授業実践をGoogle Driveのフォルダに格納し、自由に閲覧できるようにしている。そのような優れた授業実践を自分なりにアレンジすることで、「楽しく」「わかる」授業実践を行うことが少しなりとも容易になっている。また、例会等での授業実践の報告や授業書の紹介等は、単に授業実践のアイデアを共有するだけではなく、自分もより良い授業を追究していこうという意欲がかき立てられるものでもあった。

生徒のコメントを読む時間がない！

レポートや問いに対するコメント(「レスポンスカード」と呼んでいる)を書かせることがよくある。しかし、生徒の意見や考えを分析し、フィードバックする時間が限られている。当然、書かせるだけで終わってしまっただけでは生徒の社会認識も深まらない。

そこで、レスポンスカードのICT化を行うことに



した。具体的には、Microsoft Formsを活用して回答フォームを作成し、そこに生徒の意見や考えを記述させている。その結果は随時Excelにエクスポートすることができ、教師による点検も容易になったほか、「社会科通信」等での共有もスムーズに行えるようになった。

他の生徒の意見を知ることを楽しむ

ファシズムとナチス・ドイツの学習では、「あなたはユダヤ人をかくまうか」という討論授業を行ったが(鳥塚義和『モダンタイムス』と『独裁者』で学ぶ近現代史)2006年7月、歴史教育者協議会第58回大会レポートを参考にした)、その際にも、このFormsを積極的に活用した。まず、ヒトラーの政策を概観したあと、「あなたはユダヤ人をかくまうか」に対する自分の意見や考えを入力させた。次時までには生徒の意見をまとめたものを、Microsoft Teamsにアップロードし、タブレット上で生徒に共有した。授業では「かくまう」派と「かくまわない」派に分かれ、それぞれの意見や考えをグループで分析した。各グループの意見に対し、Teamsのチャット機能を活用して「反論タイム」と称して質問や批判を挙げさせた。コロナ禍においても、また、発言の得意でない生徒にとってもこのような手段が有効であったことが、生徒の感想から感じる事ができた。

私もまだ若手教師の一員として、まだまだ未熟者である。今後も自己研鑽を積んで、限られた時間の中でも積極的に生徒のさまざまな考えを引き出す授業を行っていきたい。

楽しく語り合っ、今につなげる

新日本婦人の会調布支部・学び舎の歴史教科書を読む会 黒澤 裕子

「学び舎の歴史教科書を読む会」と私

歴史は嫌いではなかったのに、いつになってもよくわからない、知らないことが多すぎる、こんな思いをずっと抱えていました。あるとき、職場の組合の学習会で新しい教科書ができると聞いて、興味を持ちました。それが学び舎の『ともに学ぶ人間の歴史』でした。組合仲間の社会科の先生たちが勧めてくれたのもあって、すぐに購入しました。

しかし、「仕事の忙しさに追われ…」は言い訳ですが、一人では読み進めることはできませんでした。退職して少し時間にゆとりができた頃、新婦人で「学び舎の歴史教科書を読む会」を立ち上げると聞いて、さっそく仲間に入れてもらいました。

自由に話せる楽しい学習会

私たちの学習会がスタートしたのは、2016年6月。早いもので、7年目に入りました。月に一度、新婦人事務所に集まって、読み合わせをしてから、自由に疑問や感想などを出し合います。参加者は、仕事も趣味も生活環境も出身地も様々で、そのうえ人生経験豊かな人たちがばかりですから、次々に意見が出て話題が広がります。映画の話、本の紹介も面白いし、女性の出産育児に関することや女性の地位の問題など学ぶところが多いです。私も日頃、感じていることを自由に話させてもらっています。

7月は「デモクラシーの波 政党内閣と普通選挙法」(第8章)について学びました。民主主義の高まりの中でやっと手にした普通選挙法。女性の参政権は、運動はあったが実現しませんでした。第二次世界大戦後に初めて女性の参政権が認められました。

今年96歳になる私の母は選挙の日の朝、きちんと身支度をして投票に出かけていました。子ども心にも緊張感を感じましたが、「戦争前は女の人は投票できなかったんだよ」とそのとき母から聞きました。今月の学習会は、ちょうど参議院議員選挙中だったので、「この時代のことを考えると、政治への意識や投票率がもっと上がってもいいよね」と、自

然に今の状況や課題に話が進みました。ここに歴史を学ぶことの意味があるのだと思います。

いつも話題になるのは、この教科書にはリアルな写真や資料が多いこと。毎回、写真や資料を丁寧に見て気づいたことや疑問などを言い合います。新しい史実を発見することもありますし、写真や資料から読み取れる大事なことがたくさんあるのがわかります。成長期の感性豊かな中学生たちだったら、もっと発想豊かに意見を出し合い、喜んで授業に取り組むのではないのでしょうか。

もうひとつうれしいのは、女性や差別されている人びとを取り上げて、その生活や行動を大事に扱っていることです。子どもの幸せや女性の地位向上を求めて活動する私たちとしてもとても勇気づけられます。

現在と未来を変革する力

学び舎の教科書で歴史を学んで見えてきたことは、「人間として生きる権利」を求めて闘ってきた人々がたくさんいること、そして、それは今につながっているということです。

ロシアのウクライナへの侵攻という戦争が続き、国内では軍拡や9条改憲の大合唱が起きている今、大人はもっと歴史を学ばなくてはならないし、子どもたちには、事実に基づいた歴史をしっかりと伝えたい。そして、現在と未来を変革する力をつけてほしいと願わずにはられません。





学生模擬授業

世界中が不景気だー世界恐慌と経済政策ー

山本 政俊 (札幌学院大学教授)

教科書資料を上手に使う

教科書そのものを教えるのではなく、他の資料も準備しては理想ですが、時間が必要です。私は教科書の資料を上手に使いこなすよう指導しています。

子どもたちから「どうして戦争は起こるの」と疑問が出されることがあります。わが国の場合、金融恐慌(1927年)→世界恐慌(1929年)→昭和恐慌へと続く経済不況を打開するために満州事変の引き金を引くことになりました。

学生の模擬授業は旧版p.224「第一次世界大戦後の文化」の復習から入りました。「ヨーロッパは第一次世界大戦で物資をアメリカから買い、アメリカは売ることによって儲け、経済的に豊かになりました。戦後最大の経済大国になりました。第一次世界大戦後、アメリカはどんな生活・暮らしをしていましたか」「大量生産・大量消費」「車や家電が普及した豊かな社会」と押さえます。

世界恐慌から戦争へ

○p.226 [1]の写真を見るように指示。「人びとは何をしていますか？」

『並んでいる』パンの配給に並んでいることを確認します。「アメリカは豊かな生活をしていたのに、なんでパンの配給に並ばなきゃいけないの？」

『美味しいパンがあるから』『お金がないから』並んでいる人が失業者であることを確認します。

○p.226 [2]の写真を見るように指示。「なんて書いてあるかわかるかな？」

『仕事が欲しい』『子どもが3人いる』

「私は3つの仕事ができる。言葉も3つ話せる。子どもが3人いるのに3か月間仕事がない。仕事が欲

しい」「どうしてこういうことになったかわかる？」

1929年10月 ニューヨークの株価が大暴落→世界恐慌へ(板書)。学生は株は公民学習の範囲であることを踏まえ、黒板にイラストを描いて株がどうい

うものなのか説明しました。
「どれくらい株価が暴落したの?」『700億ドル』
「株価が暴落して、借金を抱えたり、命を絶つ人もいました」

「大量生産した製品はどうなる?」『売れない』『余る』

「会社の物が売れなくなったら、稼ぎがなくなる。そうしたら社長は従業員の給料を払うことができる?」『できない』「手元にお金がないと不安になる。そうしたらみんなどこからお金を引き出そうとする?」『銀行』「みんな一斉にお金を引き出そうとして、銀行はお金がなくなって行って、銀行破産に繋がっていきます」

○「この不景気をどうするべき?」→ノートに書かせて発表させます。

『余った物を必要な国に売る』『仕事を増やす』

アメリカではニューディール政策を行なったことを解説(板書)。イギリスではブロック経済を行なったことを解説(板書)。

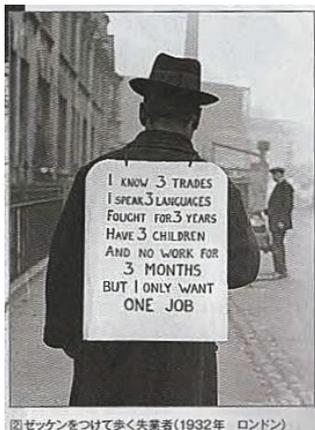
○「日本にも世界恐慌の影響はあった?」『ある』

○「どんな影響があった?」『仕事なくなる』

日本にも世界恐慌の影響があり、失業者が増えたことを確認(板書)。

p.227 [4]の新聞記事と写真から鉄道の切符が買えず、歩いて家まで帰らなければならないくらい生活に支障が出ていたことを確認します。農家は生糸輸出国のアメリカが世界恐慌の影響を受けて、買えなくなった結果、繭の価格が半値以下に下落したことを図表で確認します。

また、冷害による凶作で食うに困っていたこと、欠食児童・学校給食について触れ、「日本はこの恐慌をどう打開しようとしたのでしょうか。日本だけでは経済の回復が難しいと判断し、中国の満州を占領・開拓することで日本を豊かにしようとしたのです」





夏のお薦め映画：加藤泰監督『骨までしゃぶる』

横山 百合子（国立歴史民俗博物館名誉教授）

最近、ある男性の新聞記者から、「幼稚園の子どもに、遊廓って何？と聞かれて、困りました。いったい、何と答えるべきでしょう」と尋ねられたことがあります。アニメ「鬼滅の刃」の大ヒットで、多くの子どもたちは、遊廓という言葉を知っているとのこと。

「物語で描かれる世界とは違い、遊廓は女性を売買して、その体をもてあそぶ場だったことは、子どもの理解力に応じて、しっかり伝えなければならぬと思います。」と答えたものの、“プライベートゾーンを大切に”という教育を受けていなければ、その意味は子どもたちに伝わらないかもしれません。幼児への適切な答えは思い浮かばないままですが、中高生であれば、答える代わりにぜひ見てもらいたい映画があります。

映画『骨までしゃぶる』が描く東京洲崎遊廓

タイトルは『骨までしゃぶる』。『緋牡丹博徒シリーズ』で知られる加藤泰監督の東映映画で、桜町弘子主演、夏八木勲、久保菜穂子他出演、1966年制作。近年は、DVD やネット配信もあり、昨年秋には「ぴあフィルムフェスティバル」でも上映されました。明治30年代、東京洲崎遊廓に売りとばされた貧農の娘お絹（桜町弘子）が、夏八木勲演じる大工の甚五郎と力を合わせ、救世軍の力も借りながら警察や楼主と闘い、遊廓から脱出し結ばれるという、ハッピーエンドで終わる物語です。

しかし、遊廓を舞台とした単純な娯楽作品、あるいはAV映画と思ったら大間違い。日本近代の性売買の現場とそこに生きた人間を描くのだという迫力とリアリティは、見る者を圧倒します。娼妓自身の意思による売春という建前の裏にある、人身売買のからくりや検梅の実態、娼妓の稼ぎを楼主が搾取するしくみ、暴力（折檻）による娼妓の管理等、遊廓が、アニメに描かれるようなユルい場所ではないことは、中高生にも理解してもらえましょう。

日英同盟・士族の没落と遊廓

近代遊廓の実態を描くばかりではありません。映画では、20世紀初頭の日本が、人身売買の実態を糊塗し、日英同盟を背景に列強に仲間入りしようとする一方、妓楼主を通して性売買の収益にも依存していたことも浮かび上がってきます。

また、「士族の商法」などと揶揄された明治維新後の旧武士階級の没落は、士族女性たちの遊廓への身売りという、もう一つの抑圧を伴うものでした。映画では、悲惨な殺人事件を通して、そのようなジェンダーからみた明治維新の帰結も、鮮やかに描かれます。しかも、物語は、手に汗握る大活劇の末、人間への信頼を浮かび上がらせる結末。若者の胸にもきつと響くものがあるでしょう。

男性1人あたり1.35人の娼妓を買う時代？

映画が描いた時代よりやや下った1924（大正13）年、日本の内地人口5887万人余のうち、男性人口は約2943万人、15～64才の男性は約1736万人でした。一方、人見佐知子さんの研究によれば、その年の買春総数は延べ2340万5397人（警察調査）。つまり、成人男性一人が平均して娼妓1.35人を買ったこととなります。驚くべき買春天国であった近代日本。その現場を、リアルに、かつ底辺に生きる男女への温かな眼差しを込めて描く映画『骨までしゃぶる』—お薦めです。

*参考文献

国立歴史民俗博物館展示プロジェクト編『新書版性差の日本史』集英社インターナショナル、2021年。

拙稿「映画「骨までしゃぶる」をご存知ですか？」『千葉史学』80号、2022年。



⑦ カレーライスはインド料理ではない！？

瀬戸口 信一（元公立中学校教員）



◆金と同じ価値を持つ植物

15・16世紀、ヴァスコ・ダ・ガマ、コロンブス、マゼランを世界の海へと駆り立て、大航海時代の幕開けを後押ししたのは「スパイス」だった。そのころ、イスラム商人がスパイス貿易を独占し、胡椒1gは金1gと同じ価格で取引されたという。「新世界」を「発見」し、世界を一つにした植物「香辛料（スパイス）」を学ぶ。

◆「カレーライス」は、インド料理ではない！？



香辛料といえば、子どもたちにとって大好物のカレーライスが最も身近だ。カレーってどこの国の料理？と聞くと多くの子どもたちは当然のように「インド料理」と答える。そこで小喃をひとつ。インド人留学生が私の友人宅に来たので、自慢のビーフカレーでもてなした。それを見て留学生は叫んだ！さて何と言っただろう？子どもたちは「日本にもカレーがあるの？」「うまそう！」など。そこで小喃のオチ発表。「このどろどろの料理は何だ？」「こんな料理食べられない！」といったとき。さて、その心は？インドには日本風のカレーライスという料理はないのだ。また、インド人はヒンドゥー教徒が多く、宗教上聖なる牛の肉は食べない。子どもたちは、インドに「カレーライス」という料理がないという予想外の答えにびっくりし、「なぜ？」と追究を始める。

◆日本の「カレーライス」とインドの「カリ」

日本で一般的に食されているカレーライスは明治時代にイギリスから伝えられた西洋料理だ。ここでレトルト「よこすか海軍カレー」を出して日本のカ

レーの誕生秘話を語る。日本のカレーライスに定番の人参・じゃがいも・玉葱が入っているわけは、海軍(船上)の食事に関係していることにみんな納得。

インドの料理は、「カリ」といい日本のカレーとは全く違うのだ。昔インドを支配していたイギリス人が、インド人の食事を見て「その料理は何？」って聞き、それに対してインド人が「カリ」と答えたところから「カレー」という料理名が生まれたという。

「カリ」とは実はインドの言葉で「料理」「食材」という意味だ。つまりインド人が毎日食べている食事が「カリ」ということになる。例えると日本の味噌汁みたいなものだ。それがイギリスのシチューと交わり「カレー」となり、イギリスから日本に伝わったのがお馴染みの「カレーライス」に進化したのだ。

◆インド人の食事は、毎日「カリ」

ではインド人の食べる「カリ」とはどんな料理なのだろう？「カリ」の材料は？の問いに子どもから胡椒などの香辛料の名前が出たところで、どんな香辛料を使うか知っている？と、香辛料の名前を発表させる。用意した香辛料の実を手にとらせて味と匂いを体感させると、初めての異様な匂いと味に教室中が大騒ぎ。ところが、香辛料を石臼で挽いてミックスすると、おいしそうなカレーの香りがしてくるのは不思議。「アッ！カレーの匂いだ」と子どもたちから歓声があがる。

香辛料のそれぞれの効能を説明すると、香辛料がインド人にとって特別な食材で、必要不可欠なものであること、毎日香辛料を使った料理を食べることに納得。暑いインドで暮らすインド人にとって食欲増進・食物を腐らないようにする防腐剤の役割をしている香辛料は毎日の生活に欠かせない食材（「カリ」）なのだ。



日本軍が奪った中学校教師と生徒の命

高嶋 道（元中学高校教員）



なぜ、このような惨劇が起きたのでしょうか

今回は、マレーシアのペナン島で日本軍が教育現場を侵し殺害した事件についてお伝えします。惨劇は鐘霊中学校（Ching Ling NT High School：6年制）で起きました（写真①）。この学校は1917年の創立以来、華人社会の様々な分野で活躍する卒業生を送り出している名門校として知られています。1942年4月6日、日本軍がこの学校の8人の教師と46人の生徒を一斉に検挙し、近くに連行し虐殺したのです。私はこの痛ましい事件を初めて知った時の衝撃を忘れられません。一連の光景を想像するうちに、恐ろしすぎて心が凍るようでした。

校舎の正面玄関ホールに追悼碑があります（写真②）。この「鐘霊中学校殉難師生紀念碑」は、高さ3メートルほどで、事件の経過とその犠牲者全員のお名前が刻まれています。私たちは、黙礼の追悼をして蔡副校長からお話を伺いました。2014年8月のことです。これまで何度かの調査や関係書などから、この事件の背景について考えてみます。

華僑たちの不安と抗日意識

1937年7月の盧溝橋事件以来、日本の中国侵略の様子は、東南アジアに住む多くの華僑にも刻々と伝えられていました。祖国（中華民国）への思いは、自然と抗日意識となり、様々な救援活動をするのは当然のような状況でした。

鐘霊中学校は、華僑が子孫の教育のために創立した学校で、当時の陳充恩校長は、蒋介石が提唱する「新生活運動」の道德などの教育に熱心でした。また教師たちの中には、日本軍の占領下の上海・蘇州などで苦しみひどい仕打ちを受けたりして、逃亡してきた人もいました。生徒たちはそうした体験を聞かされていた影響もあって、反日・抗日意識は他校よりは強い傾向があったようです。街頭での日本製品不買運動をはじめ救援の募金活動などにも積極的な生徒もおり、卒業生には援蔣ルートトラック運転手として志願した人もいました。日本軍が特別視し敵意を持ったことが推察されます。

1941年12月8日、日本軍がマレー半島のコタバルに上陸した日、ペナンも空襲し、多くの死者を出しました。住民は、この日から戦争を実感しました。12月19日、イギリス軍が抵抗せずに退去したため、日本軍は、ペナン島をいわば無血占領しました。この時、イギリス軍が置いていった「籌賑会（ちゅうしんかい）名簿」を、日本軍が入手。籌賑会とは抗日軍に寄付を募る団体で、マラヤ全土の華僑の住む各地に支部が設置されていて、この名簿は、その後日本軍が「敵性華僑狩り」を実施する重要な手がかりになりました。

突然命を断ち切られた犠牲者に思いを馳せる

では、鐘霊中学校の教師と生徒はなぜ、名指して検挙されたのでしょうか、これについては確かな証拠はなく、碑文にも記されていません。とはいえ伝えられている「真相」めいた陰惨な話があります。

学校に出入りして古新聞や雑誌などを購入していた業者がいました。彼から買い取ったものをつぶさに調査し、教師らの文を見つけて、日本軍に差し出した人物がいたようです。この人の妻は軍の憲兵隊の通訳を務めていました。夫婦は台湾出身で日本に留学し日本語が達者であったため、軍から重宝がられたいわば「スパイ」であつたらしい。この「情報」によって、教師と生徒は「抗日」の容疑で犠牲になりました。どれほど無念だったのでしょうか。

小さな事件のように見えますが、ここにも日本軍が「アジアを解放する聖戦」の実態が映し出されているのではないのでしょうか。



学びを深める

バトンをつなぐ中学生

第1回 「歴史に学べ」という子どもたち

平井 敦子（北海道公立中学校教員）

ロシアのウクライナ侵攻

この春に卒業していった生徒たち。入試期間たった中で「ロシアがウクライナに軍事侵攻」という事態を目の当たりにしました。動揺が広がり、どうにかできないのかとしきりに私に問うてきました。入試が終わると彼らは「手紙」を書き始めました。何かをしたくて、いてもたってもいられない、そんな空気です。

・ロシアのみなさんへ。今のロシアを見ていると、どうしても僕らの国である日本の姿が重なってしまいます。なぜなら約90年前、満州事変を起こし一方的に日本が満州国という国の独立を認めた、あの悲劇の繰り返しだからです。満州事変とウクライナ東部の紛争では、状況は全く違いますが、形から見るとやっていることは同じです。15歳の淡い願望ですが、ロシアまで日本と同じ道を辿ってほしくありません。

・これ以上人が死ぬということを止めなければなりません。過去にも戦争はありました。そこに学ばなければいけません。69歳のおじさんが、若い命を奪わないでほしい。プーチンは間違っています。これ以上命を奪ってはいけません。

・ロシア兵へ。あなた方は今、国から何を伝えられウクライナに攻め込んでいますか。大統領の命令だからですか？ウクライナ東部の住民をウクライナ政府から守るためですか？もしこのように伝えられているのなら、自分のしていることは正しいと思うかもしれませんが、国際的に見ると、何も正しくないと思う人が大半です。なぜなら、日本も昔、今のロシアのように、中国の人を助けるため、中国の日本人を守るためとって満州を制圧したからです。

・バイデン大統領へ。プーチン氏は「アメリカも同じようなことをしているではないか」と思って、アメリカからの反対意見を受け入れないのではないのでしょうか。私たち日本人がいえることではないと思



いますが、まずそのテロに関してのことで、アメリカが反省してから、ロシアのウクライナ侵攻に対して反対するべきなのではないか、と思います。

学び舎の授業ブックレットでも紹介した『戦時下の模擬家族』など、戦争とは何か、なぜどうして人が人を殺すのか、歴史の授業で学んだことから、現在進行中の「戦争」について考察し、「戦争をやめる」ための当事者として、一生懸命考えたのです。この手紙は各大使館付けで送りました。それが顧みられるのかもわかりません。でも、今この世界で起こっている悲劇に、声をあげる、そこからしか始まらないと彼らは感じているのだと思いました。

未来を創るのは「私たち」

そして今、私が教えている3年生もまた、歴史の学習を終えて公民的分野の学習にはいり、多くの現実について学びはじめました。先日の参議院議員選挙に模擬選挙の形で参加した生徒は、日本国憲法前文にある「その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する」という一文の説明を、吸い込まれるように聞き領いていました。これからの社会の行く末は、「時代」とか「国」とか「誰か」に委ねられるのではなく、一票を行使する「自分たち」に委ねられるということ、この重みをつかんだように思います。歴史に学び、未来を創る、そんな一歩を歩み出した15歳こそ、私にとっての希望です。

連載⑨ 合唱コンクールのか

黒田 貴子 (中学校講師)

「大地讃頌」「とべよ鳩よ」「時の旅人」「青葉の歌」「筑後川」「モルダウ」「HEIWAの鐘」etc. こんな曲を合唱コンクールで歌った思い出をお持ちの方も多いかと思います。

放課後、練習場所の隣の部屋で、歌声を聴きながら仕事をしているのは心優しい時間でした。練習の当初、「男子、早く並んでっ！」という女生徒の声が聞こえてくるのは1年生。3年生ともなると、スッと練習が始まり、リーダーの言葉も違ってきます。「いい？天から降りてくるような歌声をめざしてほしいんだ」などと語りかけている男子の声に「いったい誰？」と、そっと覗いてしまうことも。

歌声が育つとき

運動会と並ぶ二大イベントである文化祭の花形である合唱コンクール。中学生の育ちきっていない、でも不思議な魅力がある歌声。その歌声がグッと育つのは、自分たちが歌っている曲の歌詞を生徒たちが深く理解したときです。

「大地讃頌」は、カンタータ「土の歌」の最終章です。広島生まれの大木惇夫は、大地の豊かさを讃え、それを破壊する人間の愚かしさへの激しい怒りをこめました。音楽の授業が週1時間に減ってしまったからは、教室での練習時間の中で全曲を聴く時間を設けるようにしてきました。「そんなことより、1時間でも多く練習しようよ」とはやる気持ちのリーダーたちに「一度、全曲を聴いてほしいの」と話して。「農夫と土」のゆったりした出だしに聞き惚れ、「天地の怒り」では激しい曲調に身をすくめ、「大地讃頌」にたどり着くと、そこにこめられた深い思いが心を充たします。そして、生徒たちの歌声は劇的に変わるので。

ヒロシマを引き継ぐ歌声

広島原爆を歌った「消えた八月」を選曲した3年生の担任の方から「学活の時間に原爆についての授業をして」と依頼されました。2年生の私のクラ



東日本大震災の中から生まれた曲「群青」の意味を語る
写真提供：山下洋児

スの選曲は「君とみた海」。3年生に「『君とみた海』も『消えた八月』も、出だしは『あつい』なの」と語り始めました。「暑い八月の海で♪」と始まる海辺での淡い恋の歌、そして「熱い光の中で、僕は1枚の絵になった♪」と歌い出す凄絶な広島八月。原爆瓦を持ち込み、広島を語りました。

当時勤務していた学校は、長い間広島修学旅行を続けていたので、原爆ドームの対岸に校名が刻まれたベンチがあります。市内で最後まで残った広島修学旅行がついにできなくなってから3年。「そのベンチは、ぽつんとあなたたちの訪れを待ち続けているの」と話しました。卒業後、広島に行って、あのベンチに座ってきました、と報告してくれた生徒もいます。

この3年生が見事に歌い上げた「消えた八月」のCDと、おとなの合唱団の「ヒロシマというとき」を、原爆投下の授業の冒頭と最後に聴いてもらっています。歌声にこめられた想いは、いまの生徒たちに確かに届いています。

コロナ禍で困難となっている合唱コンクール。今年も各学校で実施に向けてのさまざまな模索が続けられています。



学ぶ会からのお知らせ



◆2022年の全体会は、9月18日（日）に行います。

子どもと学ぶ歴史教科書の会は、おかげさまで第13期を迎えました。年に一度の全体会を9月18日にZoom（オンライン）で行います。テーマは、「学び舎教科書で、広がる深まる歴史の学び」。午前の全体会（会員が対象）では、事業計画（第12期総括・第13期方針）をお示しします。その後各地で進められている市民の学習会の報告と交流をします。午後は、「学び舎教科書研究セミナー」として、学び舎教科書の採択校2校から授業実践報告をしていただく予定です。

学び舎教科書は、中学校の教科書としてだけでなく、市民の学習会のテキストとしても使われています。午前の全体会と午後のセミナーの両方に参加し、市民の学びと子どもの学びを比較してどこが同じでどこが違うのか、こうした視点から学び舎教科書について考えることもできます。

参加を希望される会員の方は、9月5日（月）までに事務局アドレス (manabukai@mbm.nifty.com) へメールでお申し込みください。詳しくは、別紙チラシ（事務局通信）をご覧ください。

●A2の会費を「ゆうちょダイレクト」で入金できるようになりました。

A2会員（年会費3000円）の皆さまに第13期（2022年度）の会費の納入をお願いします。該当する方には、例年通り郵便振替用紙を同封しました。今回新たに、以前から要望のあった「ゆうちょダイレクト」による入金もできるようになりました。自宅のパソコンから振り込みができます。しかも、「ゆうちょダイレクト」を使うと手数料がかかりません。詳しい手続き・入金の方法は、事務局通信に載せましたのでご覧ください。

▲授業ブックレット第12号が発売されました。

ラインアップは、永島 梓「山本宣治と彼の生きた時代」、牛島貞満「沖繩戦についての視点」、奥山 忍「ふりそでの少女ー「最後の」戦争被爆地ナガサキからのメッセージ」、滝口正樹「被ばく労働を基底に据えた「原発」問題の授業」です。定価は700円＋税。

■学び舎は、次のような書籍を販売しています。

・『問いを生み出す学び舎歴史教科書』（2700円＋税）。学び舎教科書について、研究者・教員・市民が語ります。現在使用されている教科書が付属しています。

・『「ともに学ぶ人間の歴史」ガイド 楽しくわかる深く学べる』

（1400円＋税）。このページではこのような問いが生まれるという実例を紹介します。教科書をより深く理解できます。

詳しくは、学ぶ会ホームページ (<http://www.manabisha.com>) で紹介しています。

ご注文は学び舎へ。電話：042-512-5960 E-mail：manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp



一般社団法人	子どもと学ぶ歴史教科書の会（略称「学ぶ会」）
事務所住所	〒190-0022 東京都立川市錦町3-1-3-605
メールアドレス	manabukai@mbm.nifty.com
ホームページ	http://www.manabisha.com
編集・発行	一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会